

はじめに

「家庭・学校・地域で、人とのふれあいを大切に」

「ブー、ブー」というバイブ音で目覚める高校生の少女。「10分後に荷物をお届けします」と、携帯電話からのメッセージ。彼女が縁側に向うとドローンが到着。荷物を受け取った彼女は、「時間ぴったり」とつぶやく。届いた荷物は、新色のスニーカー。彼女が冷蔵庫に向って「朝ごはん何にしようかな」と声をかける。AI(人工知能)付の冷蔵庫が、「ほうれん草とりんごでスムージーはいかがですか」と応じ、「牛乳がなくなるので注文しますか」と付け加える。「よろしく」と彼女。朝食の食卓、「お出かけの時間です」とAIスピーカーが声をかける。彼女が、「コロッケパンとミックスサンド、いつもの店でお願い」と言うとAIは、「注文しておきます」。

届いたスニーカーを履き駆け出す。途中、「会計クラウドシステム」が導入された店でパンを受け取りバス停へ。到着した無人走行バスに先輩と共に乗り込む。彼女がひと言、「未来が楽しみでしょ」。

これは、政府広報「ソサエティ5.0 20XX年 半歩先の未来」の動画の概要です。超スマート社会ともいう「ソサエティ5.0」の社会は、すぐそこに迫っています。AIなどの技術が進歩し、近い将来、生活のあらゆる面で便利さが更に増すでしょう。その面では確かに「楽しみな未来」ではあるのですが、「少し気にかかる未来」でもあります。それは、人が人とのふれあいがなくても、生活をしていける未来に近づいているようにも思えるからです。

今年度の「地域安全・青少年健全育成市民大会」での西浦中・鈴木愛奈さんの発表は、「言葉の力で」でした。袋小路に入っていた愛奈さんを救ったのは、「どうしたの。話聞くよ」という友達の言葉。そのひと言が、暗闇から彼女を導く一筋の光となったのです。それは、AIではなく、血の通った友達の言葉だからこそ持つ力です。

子どもたちは、人との関係を家庭、学校、地域での年齢を超えた皆さんとのふれあいなどから学びます。様々な経験を通して、人として相手を思いやる心の大切さなどを学びます。そうした意味で、「地域ふれあい活動」などの活動が続けられている本市の青少年健全育成事業は、益々意義を増すものです。今年度も各地区の皆様のご協力をいただき、青少年健全育成事業を実施していただいたことに深く感謝を申し上げます。

人が人として成長するためには、多くの人と関わるのが大切です。この事業がこれからも継続することを期待し、皆様のご支援をお願いするものです。

令和2年2月 蒲郡市教育委員会教育長 大原 義文

も く じ

は じ め に

I	令和元年度	蒲郡市青少年健全育成地域活動推進事業	-----	1
II	令和元年度	青少年健全育成協議会・地域ふれあい活動	-----	2
1	大塚地区		-----	3
2	三谷地区		-----	7
3	蒲郡地区		-----	10
4	中部地区		-----	15
5	塩津地区		-----	19
6	形原地区		-----	27
7	西浦地区		-----	33
○	令和元年度	健全育成協議会並びにふれあい活動のまとめ	---	37
III	令和元年度	補導員活動	-----	38
IV	令和元年度	地域安全・青少年健全育成市民大会	-----	39
○	大会宣言		-----	40
○	小学生・中学生・高校生の意見発表		-----	41
V	蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会の活動報告		-----	55

お わ り に